

(29) ・「道道道道道道道道」

道道道

・「道道道道道道道道」

298×25×1 011

SD五〇は調査地北西部の久世中学校の構内で検出されている流路の延長部と推定される。この調査では、杭を多量に使用した北西から南東方向の東岸の護岸跡が検出され、流路の流れを南北方向に変えている。今回の調査では、流路の西岸を確認した。

左京一条三坊六町内では第三六次調査で二間×七間の東西棟の建物が検出されており、今回の成果と合わせると建物遺構は南部に中心がある。北部はSD五〇〇流路の上面を整地していることなどから広い空間地を確保したことがわかる。

八世紀末の遺跡の性格は、多量の木簡とその削屑の整理を待たねばならないが、東部に大規模な流路があり、樽など材木関係の木簡の存在、多様な役所名・人名（判読可能な削屑の三〇%以上が人名）などから長岡京の造営に伴う材木など物資の陸揚げ地や集積場、またその加工場と考えられる。しかし、全文の釈文作成と整理の後に結論をだしたい。

なお木簡(1)(2)(3)の朱書は、隣接の行の上に加えられているものがある。

釈文の作成には木村捷三郎・杉山信三・村井康彦・鬼頭清明の各

氏に協力していただいた他、左記の人々の参加による研究会を組織し作業にあたった。中山修一・井上満郎・橋本義則・館野和己・西山良平・吉川真司・山中 章・清水みき・土橋 誠

9 関係文献

六勝寺研究会『大蔵遺跡発掘調査報告』（一九七三年）

（百瀬正恒）

神奈川県立埋蔵文化財センター編

『宮久保遺跡Ⅲ』―神奈川県立埋蔵文化財センター

調査報告15―

『木簡研究』六号に紹介され、天平五年の年紀と「郡稻長」などの記載で注目された木簡が出土した宮久保遺跡の正報告書で、奈良・平安時代篇にあたる。遺構・遺物の詳細な解説がある。

B5判、本文篇八四四頁、図版篇二九〇頁、付図一五枚。
神奈川県立埋蔵文化財センター 一九九〇年三月刊行。